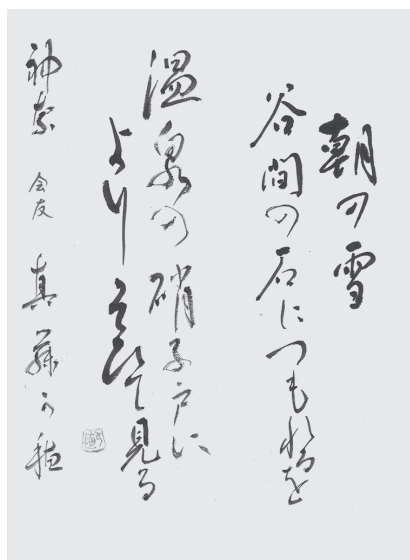


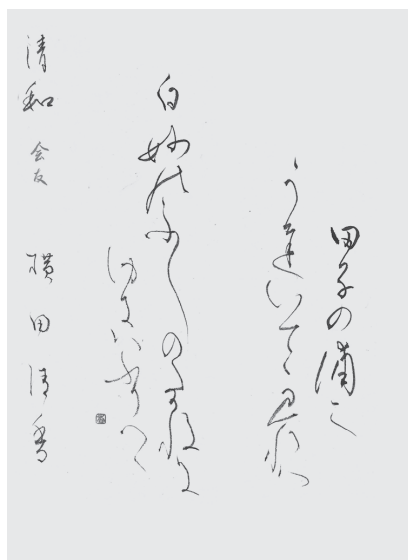
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



神奈 真藤 可穂 やわらかな墨色で余白を十分にとり、行間の呼びかけもある。一字一字を丁寧に書き、潤濁、太細の変化ある心温まる作。（審査評 東仲 遙邨）

【かな半紙】



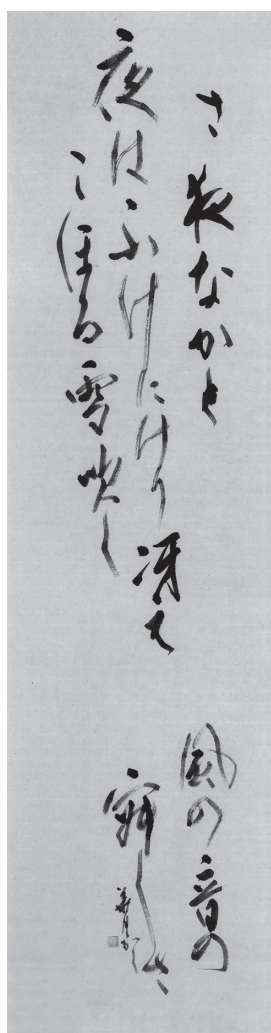
清和 横田 清香 大きな流れで一貫し、ゆったりした筆の運びは品致高く墨色も爽やか。空間の白が作品に安定感をもたらした。（審査評 中條 琳音）

【漢字半紙】



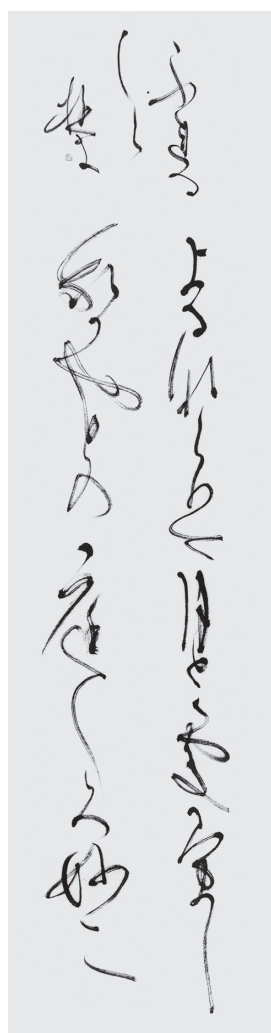
水菱 青戸佑きこ 紙墨相和し多彩な線を緩急自在に駆使し、まさに神韻縹渺とした奥深い趣の傑作。特に「雪」に熟達の筆を見る。（審査評 池田 知之）

【新和様条幅】



横浜 高山 華月 自然な流れに柔らかな線と墨彩が温かい。特に下段の「風の音」の群には遠近感があり、品位高く情趣漂っている。（審査評 二宮 桂秀）

【かな条幅】



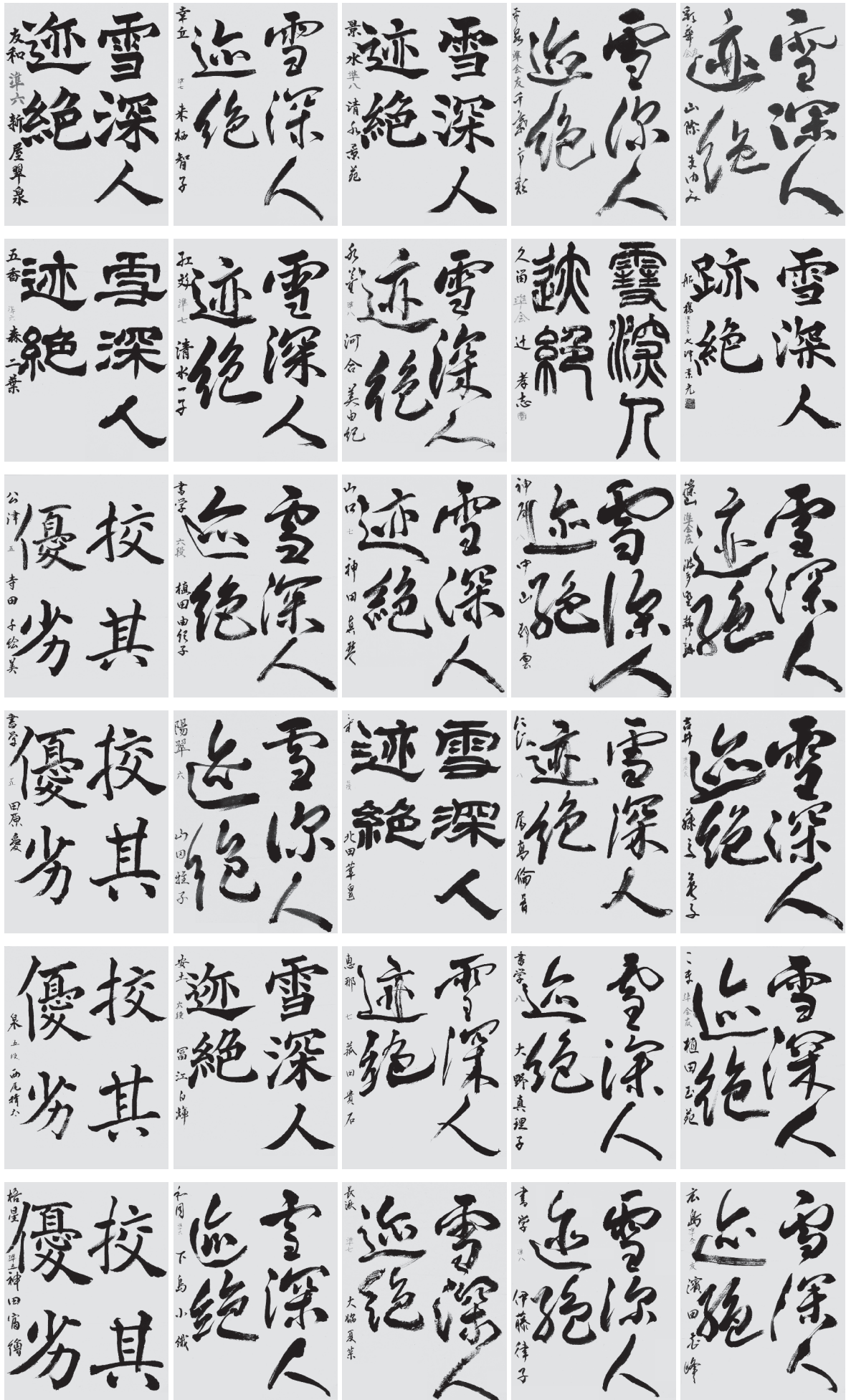
初音 岡本 智子 上下形式で、空間の妙意を得た運腕闊達な作。墨量を控えた弾力ある線はリズムにのって、スケール大きく響きは高い。（審査評 中島 永岳）

【漢字条幅】



伊賀 石田 春代 渴筆を駆使した淡墨の作品で、余白に負けない筆力を感じる。落款に対する押印にも納得させられる秀作。（審査評 永井 香樹）

1月提出の競書の写真版全作品は、1月29日（木）より本会ホームページに掲載いたします。



書学
上野真弓
優校
劣其

書学
二 根本伊織
優校
劣其

草部
二 田 欣子
優校
劣其

書学
中川 原子
優校
劣其

南上
塩田洋子
優校
劣其

追浜
平田 智世
優校
劣其

書学
二 近藤 昇
優校
劣其

春水
伊達 宏子
優校
劣其

書学
宮城由美
優校
劣其

書学
島由夏
優校
劣其

相武
是枝 敦子
無四
形時

書学
野澤 貴代子
優校
劣其

詠雪
在間 祐子
優校
劣其

書学
三 富永江達
優校
劣其

あおば
四戸崎 果歩
優校
劣其

書学
渡部 香奈枝
無四
形時

書学
初 豊 丹生 拓真
優校
劣其

書学
二 山本 惠子
優校
劣其

書学
三 段 小林 奈保子
優校
劣其

書学
相上 悦穂
優校
劣其

悟星
横本 優子
無四
形時

草部
一 齊藤 洋子
優校
劣其

書学
一 大田 菜穂子
優校
劣其

双葉
三 阿部 京子
優校
劣其

関四
青山 愛
優校
劣其

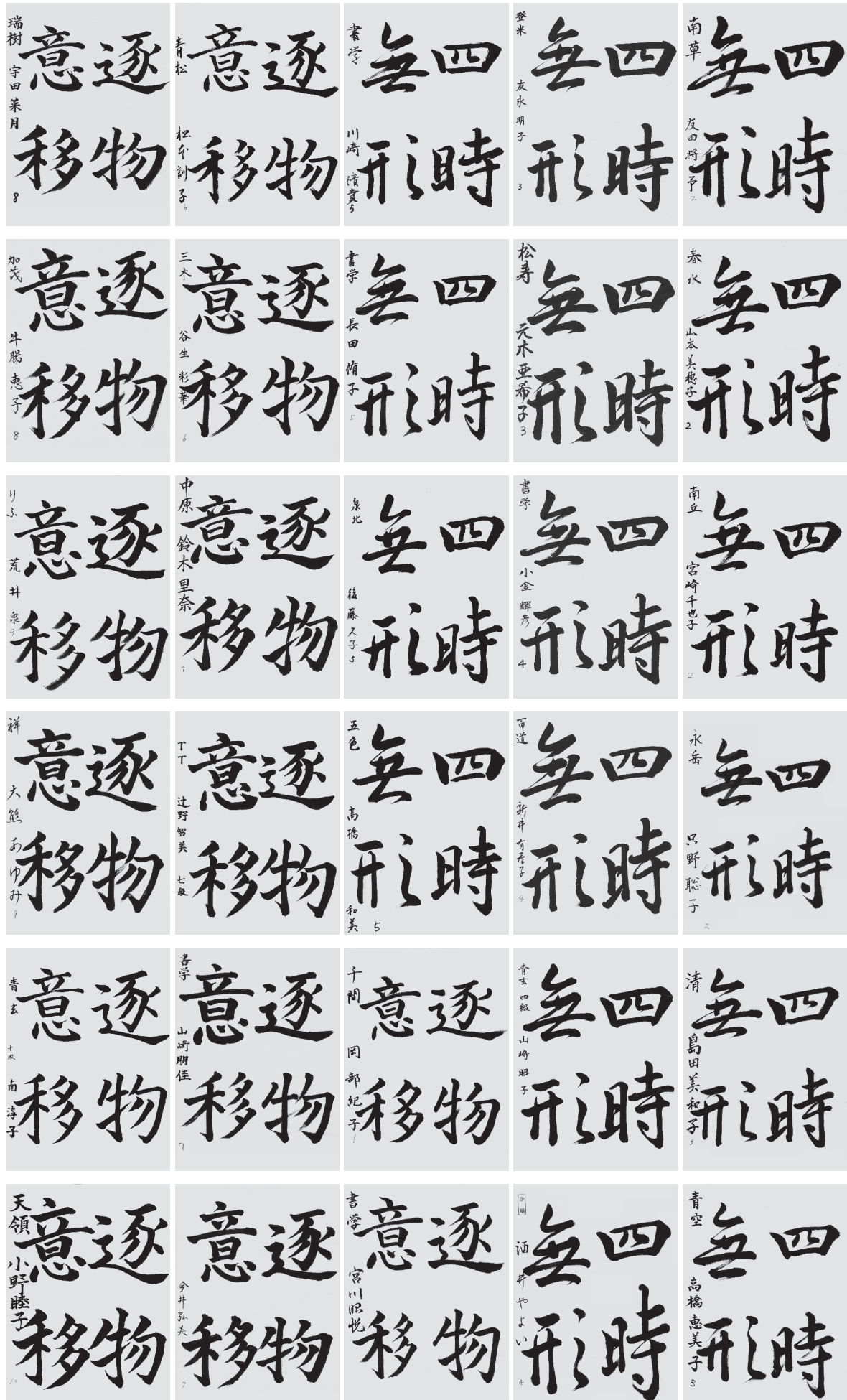
書学
吉永美夕季
無四
形時

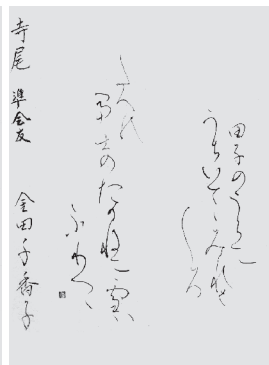
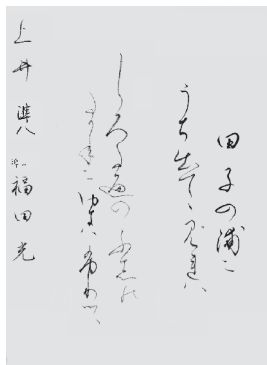
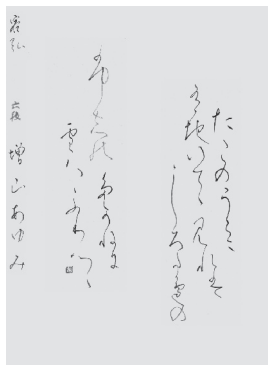
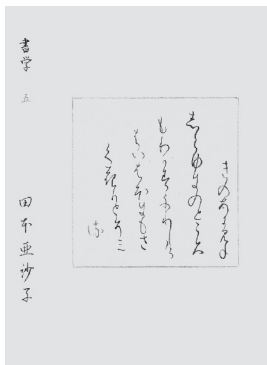
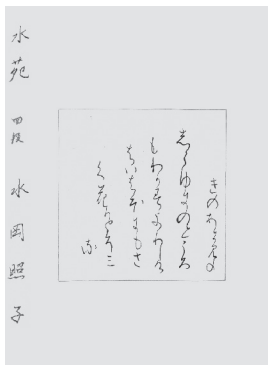
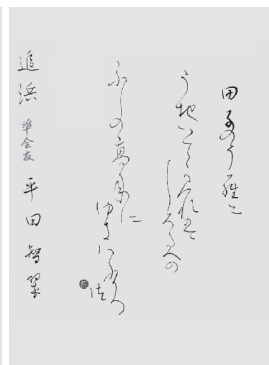
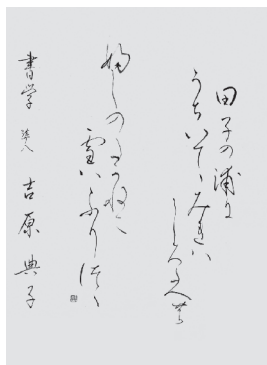
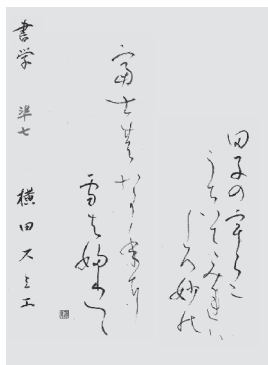
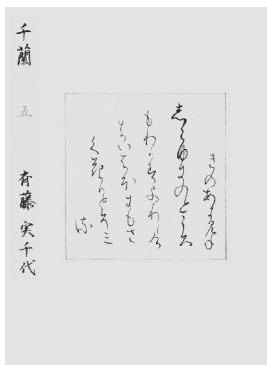
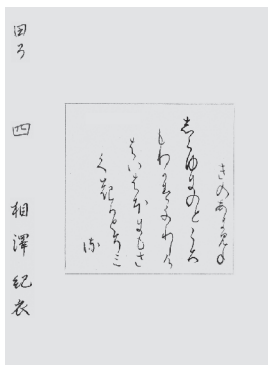
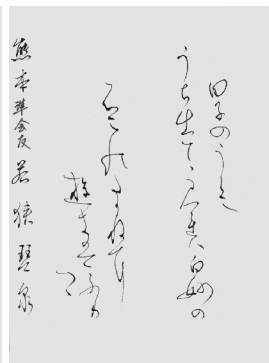
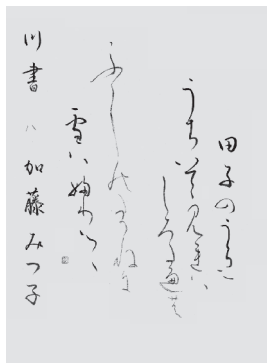
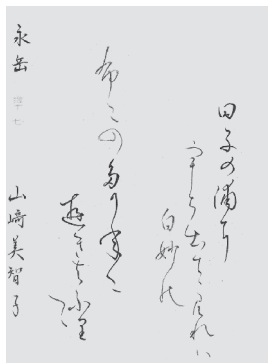
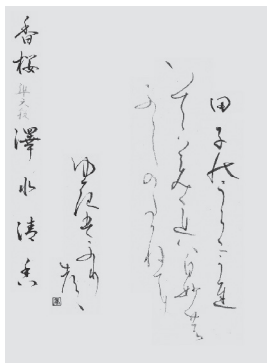
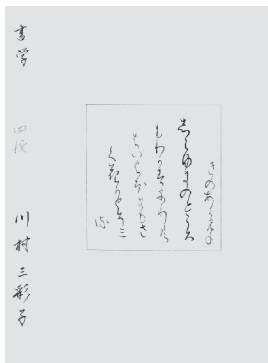
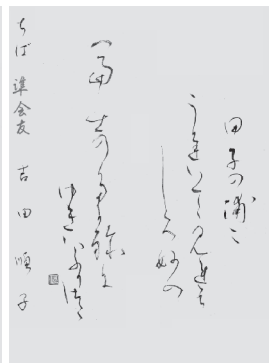
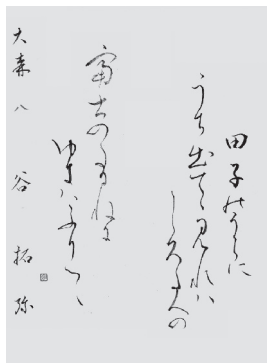
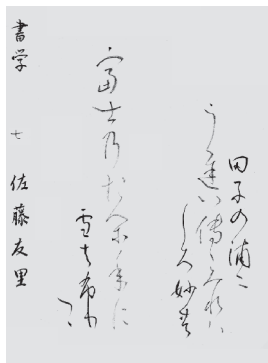
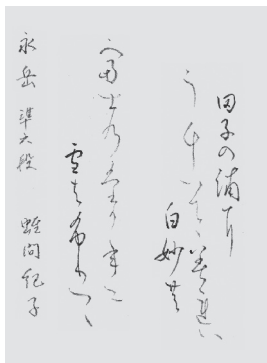
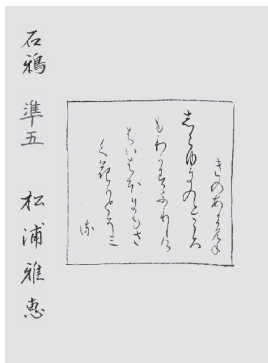
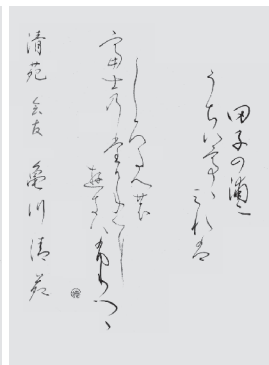
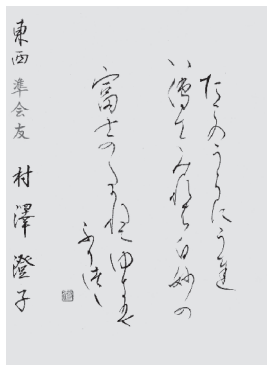
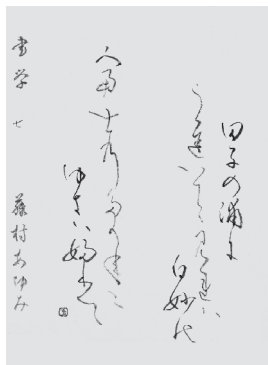
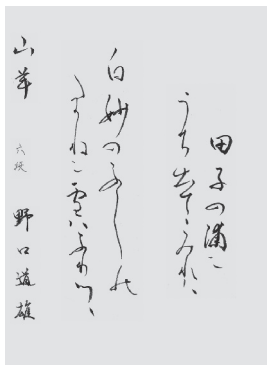
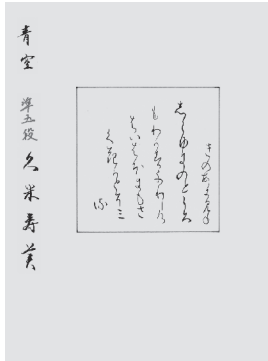
書学
小泉 しのぶ
優校
劣其

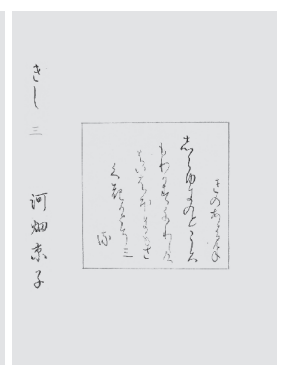
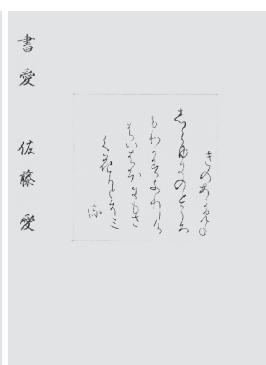
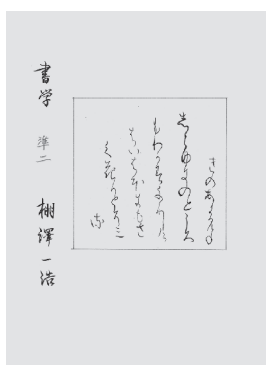
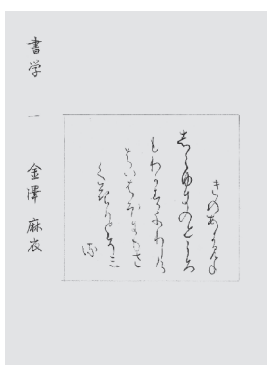
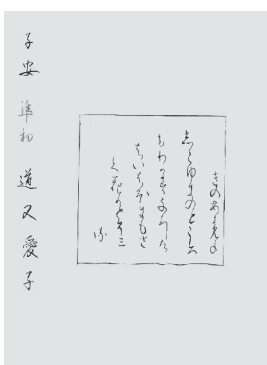
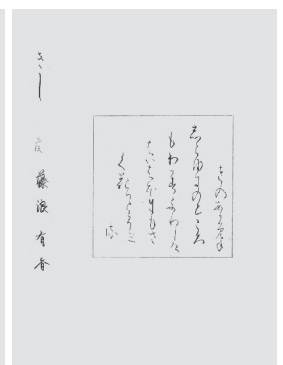
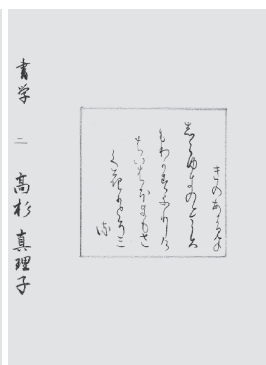
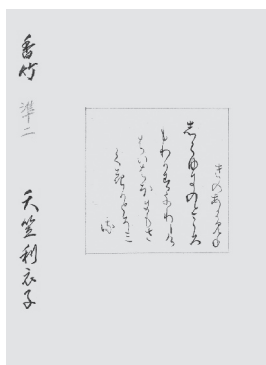
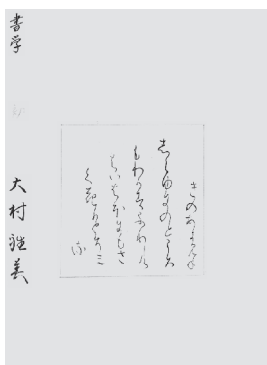
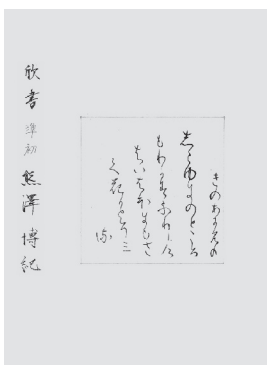
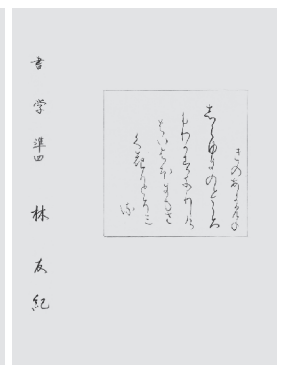
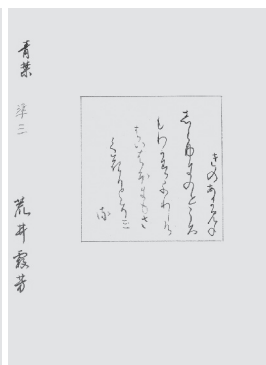
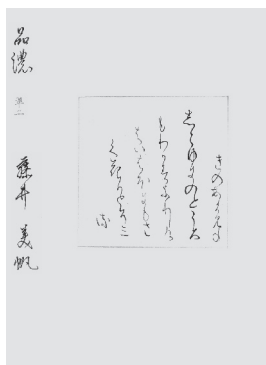
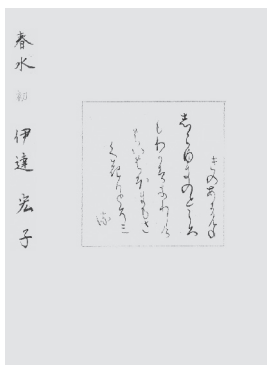
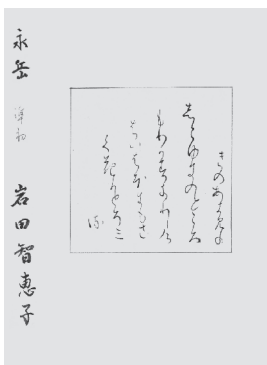
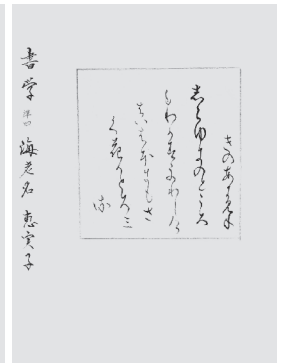
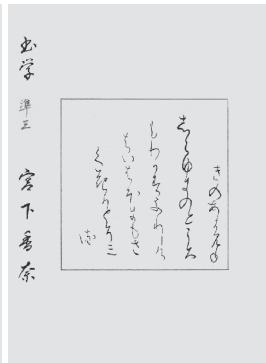
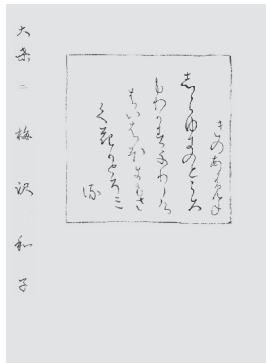
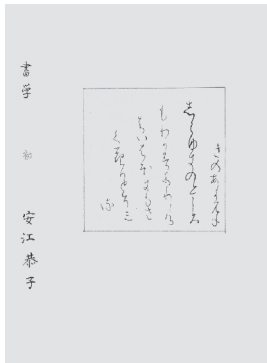
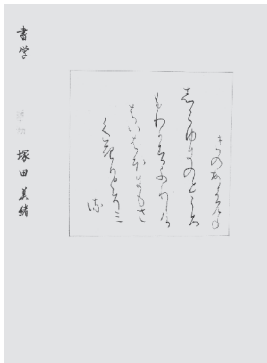
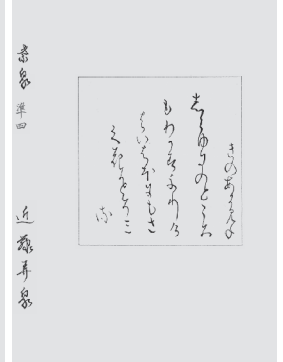
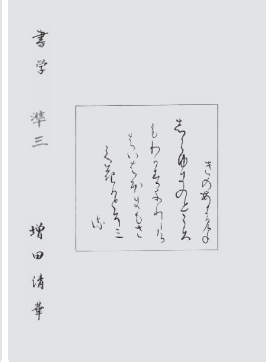
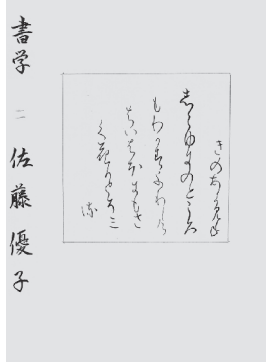
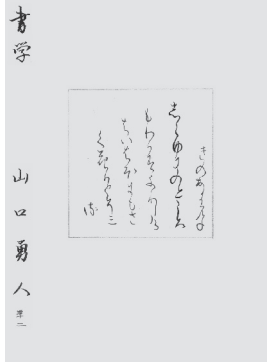
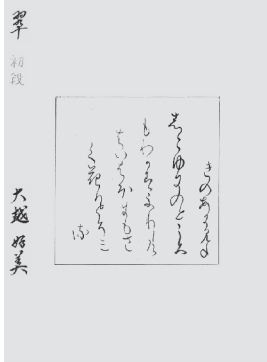
書学
三 松本 麻里
優校
劣其

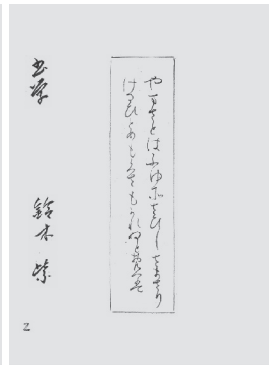
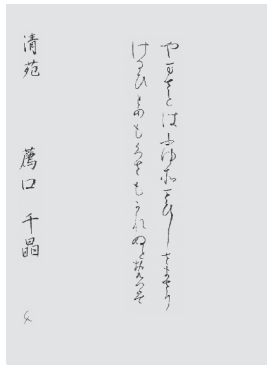
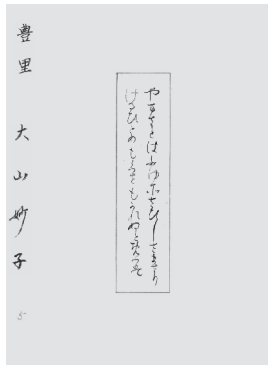
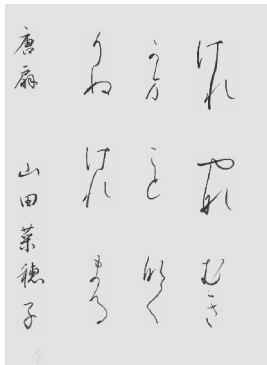
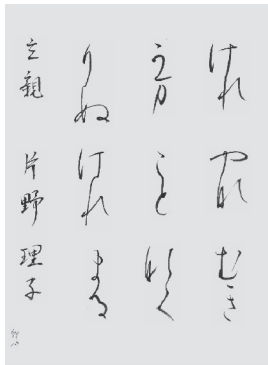
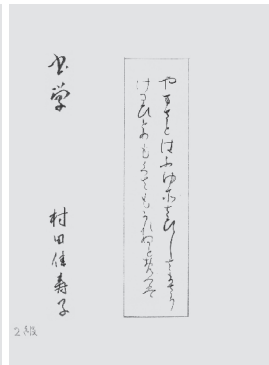
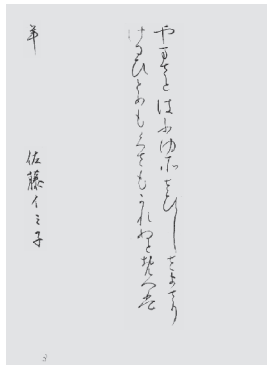
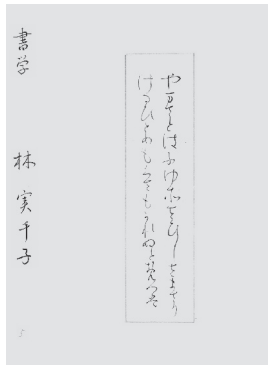
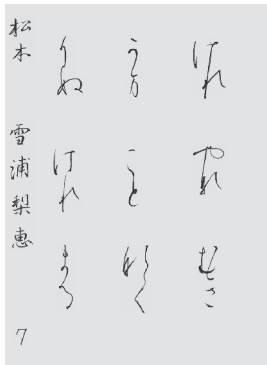
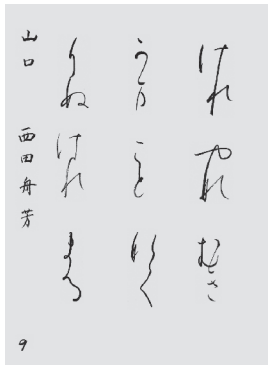
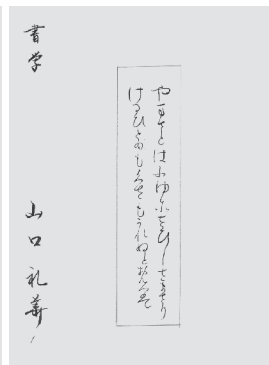
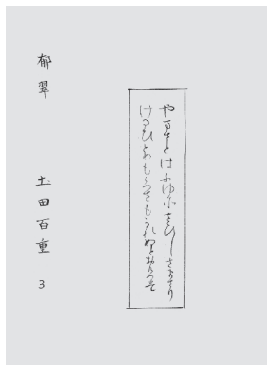
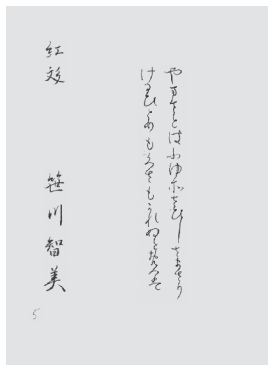
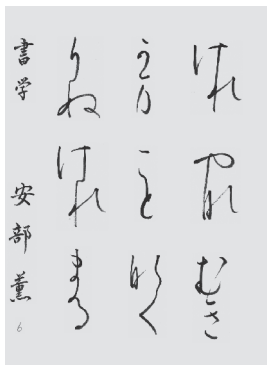
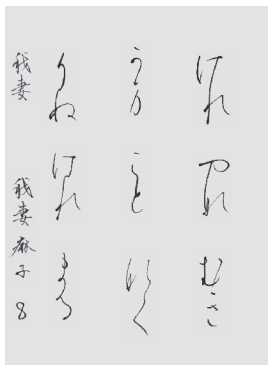
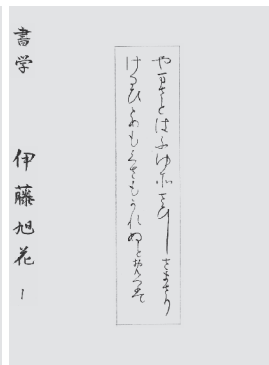
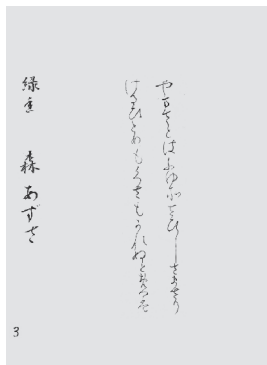
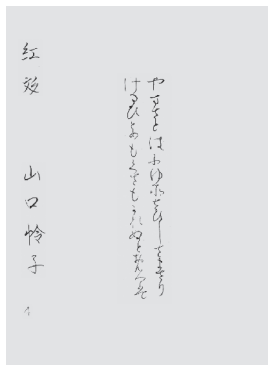
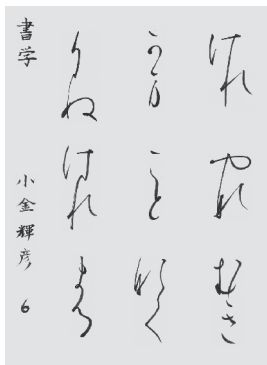
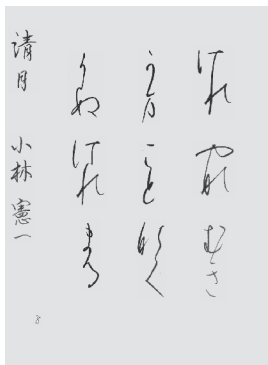
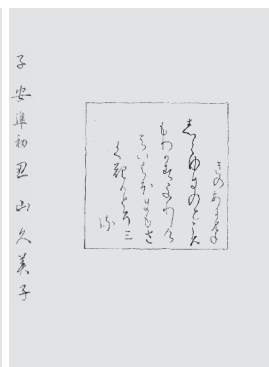
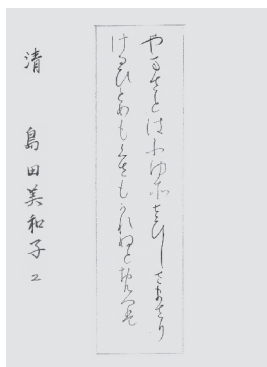
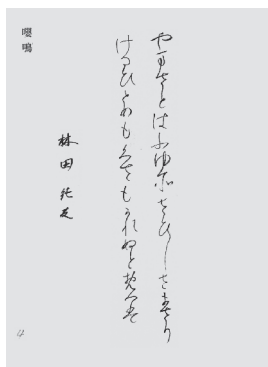
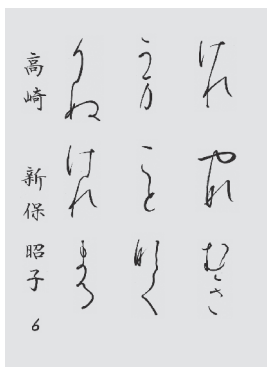
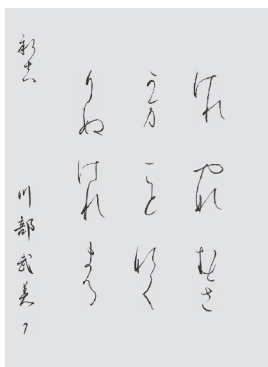
春日
三 杉山 佳子
優校
劣其

書学
齋藤 和子
優校
劣其









明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 五 宮尾仁庸

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 四 小形久美子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 三 遠藤志帆

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 二 増田清華

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
春水 初 河遠宏子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
祐国 五 山口美華

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 四 濱田愉子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
草扇 三 段 和田恵子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
和南 二 奥田智恵子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 初 宮本付葉

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
松林 準 五 水口和子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
奏 準 四 安藤紗更

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
洗心 準 三 新井 通樹

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
MM 準 二 千葉伶華

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
梧星 準 初 福村歩美

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
松林 準 五 船越郁

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 四 廣本萌香

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 二 國本和久

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 一 吉原琳華

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
青梅 準 初 小出昭子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
八代 準 五 上村 芳子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 四 松田 徳子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 三 川村千恵

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 一 大田 美穂子

明けぬ夜は
みんな
希望を
持つて生きて
書学 準 初 根本伊織

大根を抱き
抱き、碧空を
見て
見えて
ゆけり
新鴻
坂井光華

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
清光
久保田光江

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
鈴木智子 4

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
川崎清美 6

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
大藤
村越奈弓 8

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
金澤直子 1

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
安田朋未 3

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
清
島田美和子 4

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
永野寛之 5

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
加茂
牛腸恵子 8

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
志那
足立啓陽

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
加藤詩達 3

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
松本千尋 4

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
羊
葭原明弘 5

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
恵那
井ノ茂造

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
伊藤旭花 2

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
紅紋
笹川智美 3

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
大楠
繁田香子 4

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
11月
佐藤美智子 5

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
葉
吉屋和子 9 紙

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
都城
甲斐和恵 2

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
清和
武石有希子 3

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
永岳
村上由華 5

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
春日
早川ミエ 7

大根を抱き
碧空を
見てゆけり
書学
安部薫 10

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

東雲 三浦 幸子

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

新書 坂井 珠江

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

万里 神之田澄水

開城樹色僅寒近御
苑砧聲 白晩多

書字 藤井 明美

開城樹色僅寒近御
苑砧聲 白晩多

書字 山崎 幸恵

東林氣微白

佳 泉 小

北 甫木 玲子

東林氣微白

玲 子 小

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

新書 大島 薫

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

紅衫 竹田 友香

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

書字 金丸 真理

開城樹色僅寒近御
苑砧聲 白晩多

松声 浅野 壮子

開城樹色僅寒近御
苑砧聲 白晩多

書字 廣本 萌香

東林氣微白

泉 小

海光 竹内真以子

東林氣微白

泉 小

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

加茂 石黒 純子

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

書字 樋口 義広

霜風掃盡千林葉閑
倚筇枝數鶴巢

九書 井上 恵子

開城樹色僅寒近御
苑砧聲 白晩多

五香 小澤 陽子

開城樹色僅寒近御
苑砧聲 白晩多

千間 池之上彰子

東林氣微白

聖 奈 小

翠湖 白井 華芳

東林氣微白

華 芳 小

今月の優秀作品

○ 高橋 英秀

書学 藤田 理佳

永岳 蛭間 紀子

百合 外山 香風

大船 青木 弥生

古川 坂下 洋子

玉娥 中川 昌代

師 奎奎
羅生門

五石 五石 蘭芳

長野 岸 久子

上井 福田 光

紅 杉 鈴木 壽美

書學 宮下 香奈

紫泉 櫻井 多恵

書学 唐木真理子

生門

書学 上條 直子

川書 加藤みつ子

書学 西原 薫

水荃 佐藤 孝子

香竹 三宅 有里

加古 井上 梨沙

梧星 横木 優子

養生門

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

伊賀 石田 春代

下夜なかと夜はふけにけり 涙を
こぼる雪吹く風のおとの寂しき

新書 舟崎真紀子

下夜なかと夜はふけにけり 涙を
雪吹く風のおとの寂しき

書学 柴山 千恵

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

仙水 川口 凛々

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

書学 阿部 文江

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

MM 千葉 伶華

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

下夜なかと夜はふけにけり 涙を
こぼる雪吹く風のおとの寂しき

桃林 斎藤 江葉

下夜なかと夜はふけにけり 涙を
こぼる雪吹く風のおとの寂しき

書学 酒井 葉香

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

永岳 鈴木 明子

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

游山 牧岡 牧子

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

洗心 村松 永好

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

香竹 三宅 有里

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

桑原 佐伯 政子

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

書学 鈴木 哲

下夜なかと夜はふけにけり 涙をほろ
雪吹く風のおとの寂しき

書秋 金子 和美

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

有杉 池田有紀子

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

書学 遠藤 志帆

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

梧星 横木 優子

冷えてし 澁茶すすりて世がたり
今夜も更けぬ 松風のこゑ

教 室 名
豊 田
氏 名
加 知 礼 子

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
セ ン
氏 名
升 お 美 恵 子

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
三 花
氏 名
篠 原 美 佳

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
白 山
氏 名
松 岡 清 葉

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
山 本
氏 名
青 柳 光 祥

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
洗 心
氏 名
久 保 治 舟

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
景 水
氏 名
清 水 景 苑

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
日 報
氏 名
鳩 岡 淳 子

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
そ ら
氏 名
池 田 晃 可

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
湘 花
氏 名
阿 部 の り こ

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
千 ヨ
氏 名
石 島 徳 子

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

教 室 名
書 学
氏 名
高 井 起 久 子

今年も余すところわずかになつてま
いりたご一同様にはご健勝の由にて
何よりとおよろこび申しあげます

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

紅葉 竹入 絹代

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

ちば 吉村 まさ子

上王佛国遙聞此娑婆世界說法華經与无量无边百千萬億諸菩薩衆共來聽受唯願世尊當為說之若善男子善女人於如來滅後云何能得是法華經佛告普賢菩薩若善男子善女人成就四法於如來滅後當得是法華經一者為諸佛護念二者殞衆德本三者入正定聚四者發救一切衆生之心善男子善女人如是成就四法於如來滅後必得是經今時普賢菩薩

習志 安廣 清翠

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

Y S 柳瀬佐代子

上王佛国遙聞此娑婆世界說法華經与无量无边百千萬億諸菩薩衆共來聽受唯願世尊當為說之若善男子善女人於如來滅後云何能得是法華經佛告普賢菩薩若善男子善女人成就四法於如來滅後當得是法華經一者為諸佛護念二者殞衆德本三者入正定聚四者發救一切衆生之心善男子善女人如是成就四法於如來滅後必得是經今時普賢菩薩

書学 國吉 利典

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

金子 金子シゲ子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 宮下 香奈

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 濱田 愉子

上王佛国遙聞此娑婆世界說法華經与无量无边百千萬億諸菩薩衆共來聽受唯願世尊當為說之若善男子善女人於如來滅後云何能得是法華經佛告普賢菩薩若善男子善女人成就四法於如來滅後當得是法華經一者為諸佛護念二者殞衆德本三者入正定聚四者發救一切衆生之心善男子善女人如是成就四法於如來滅後必得是經今時普賢菩薩

書学 和久津久美

審査評―秋山 凌雲
規定「永受嘉福」



水筆 武藤美栄子

金文を選定し、文字の偏旁における大小の対比や朱白のバランスが見事に調和している。力強い刻法も秀逸。



書字 石井 孝夫

木印ならではの鮮明な刀痕が作品の魅力となっている。丁寧な鈴印により印影も鮮やかで力強い。「口」は曲げの角度が強過ぎるかも。



松聲 坂爪 宏甫

漢印特有の古朴で力強い雰囲気良く表現されている。初出品ながら、印面全体のバランス感覚に優れている。

随意「楽不可極」



書字 高見 敏久

印面全体の構成が優れており、字形にも崩れが見られない。全体的に落ち着いた安定感が感じられる秀作。

規定（羅）

審査評―松岡 雪華

書美の真髄を求める漢字の一字書――



大阪 森口 幸枝 運筆の遅速緩急による表情豊かで自然な連綿が紙面をうねる。陰翳ある墨色が作品に品致を与えている。



広島 好田 萩水 躍動感のある大胆な筆運びで紙面を圧し、適度な潤渇により骨力豊かな表現となった。



高丸 山本 幸子 右側に空間を残し、思い切った造型が斬新。太細の変化によって余白が生きた。控え目な押印が作品とよく調和している。



きし 根来 佐枝 金文による造型。緊張感のある冴えた線が見事。「佳」の渴筆が書線に骨力を与えている。

随意（え）

審査評―松岡 雪華

詩情や筆遣ひの極意を知る平かな表現――



書字 木村 香織 「え」の字源「衣」を大胆に表現。筆鋒が冴えた豊かな線質により、滋味溢れる作となった。



愛山 渡邊 輝水 上部を大きく表すことにより、遠近感のある紙面構成となった。押印により作品が安定した。



愛山 高田 佳桜 運筆の呼吸が感じられる穏やかな作。太細の変化も見事で、青墨のにじみも美しい。



観門 下村 静子 筆の開閉による線の太細の変化に加え、直線と曲線を巧みに表現している。押印にご留意を。